

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	すくすく健やか 健康づくり	越前市
アイデア名 (注1) (公開)	スマホアプリで楽しく！お得に！歩こう		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	ながら運動普及推進隊		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム	<input type="radio"/> 2. 学生によるチーム	<input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	5名		
代表者情報	氏名 (公開)	田中 輝子	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

越前市では、加入者の高齢化と医療の高度化により国民健康保険の被保険者の人数は減っているにもかかわらず、医療費が増加していることが課題となっている。

また 40～50 の年齢層では健診も生活習慣病の医療も受けていない人が多く、いわゆる健康づくりに無関心層であるが、将来の健康リスクを低減するには、無関心層に対して健康づくりの気運を高めていく対策も必要である。

運動普及推進委員会では、「越前市健康 2 1 計画」の趣旨を踏まえ、介護予防や生活習慣病予防のための運動教室を年に複数回行っているが、参加する世代が高齢者層に偏っており、活動の更なる PR と参加者の増加が課題となっている。

そこで、より多くの人に当団体の活動を知ってもらい、市民に運動普及するための方策を検討した。

具体的には、普段からながら運動に着目しているが、なかでも手軽に行える「歩くこと」に着目した取り組みを進めることとした。

■ 目的

「健康に関心の少ない働き盛りの世代を対象に運動習慣を身につけてもらい、ピンピンコロリで医療保険にかからない人を増やすこと」

■ アプリ開発

若者から高齢者まで所持率が高く、外出時にも持ち運ぶスマホでのアプリ開発が有効であり、市のイベント情報や健康診断の日時をお知らせする機能などを持たせることで、市民向けの健康アプリとして、既に存在する民間の健康アプリとの差別化を図る。また、ポイント制を導入し、目標ポイント達成者には賞品を贈呈することで参加者にインセンティブを与える。

■ アプリ内容

・歩数機能

毎日の歩数をカウントし、一目でそれを確認できる。

目標：男性 8500 歩 女性 8000 歩

・ポイント機能

毎日歩いた歩数に応じて、利用者にポイントを付与する。

けんこう食メニューを提供する健康応援の店に行くと、利用者にポイントが付与される。

・イベント機能

市で開催する特定健康診査や健康に関するイベントに参加すると利用者にポイントが加算される。

・お知らせ機能

地区ごとに開催されるイベント情報や各種検診の情報を利用者にプッシュ配信でお知らせする。

・マイナンバーカード

越前市ではマイナンバーカードの普及促進が課題となっており、健康ポイント事業のポイント達成者にはマイナンバーカードで使用出来る地域経済応援ポイント（越前市ポイント）を付与する。

(2) アイデアの論拠（公開）

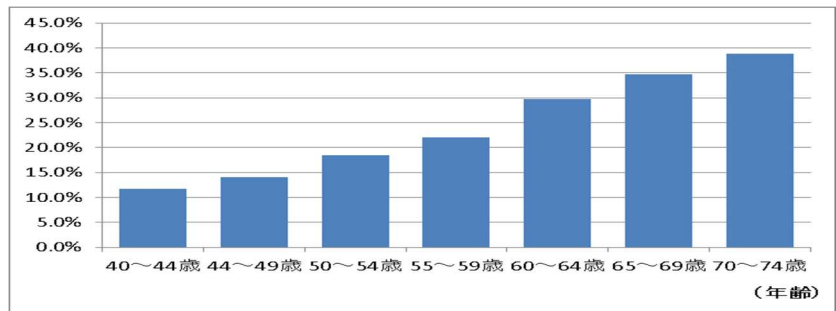
アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

■ 働き世代を対象とする根拠

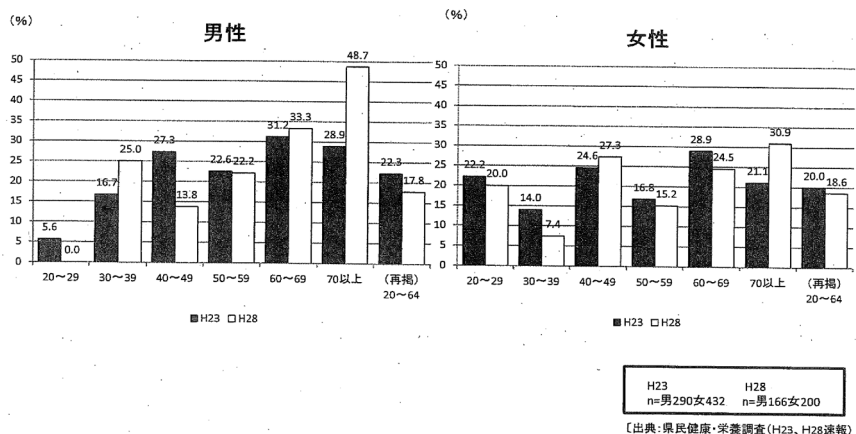
資料 1 から年齢別検診受診率を見ると、40～50 歳の年齢層で受診率が低く、働き世代で自身の健康に興味のある人が少ない現状がわかる。また生活習慣病は、一般的に男性は 40～50 代、女性は 50 代から発症する傾向があることから働く世代が健康を維持していくことが重要だと考えられる。資料 2 によると、男女ともに 70 代で運動習慣を持つ者が多いことがわかる。これらを踏まえて、働き世代を対象としたアイデアを提案した。

資料 1：年齢別健診受診状況

【越前市特定健診法定報告基準
（健康増進課提供）】



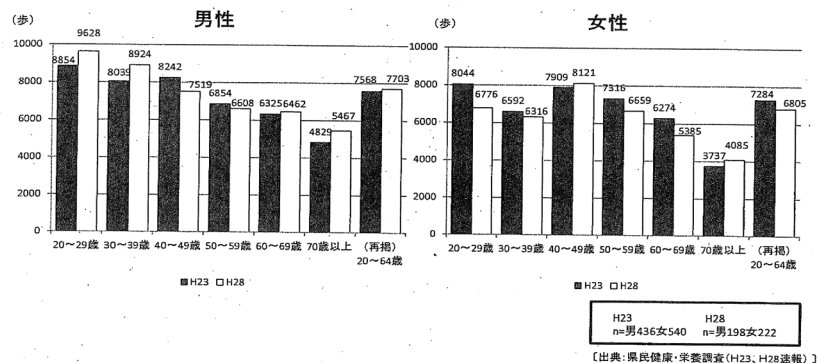
資料 2：運動習慣のある者の割合
（性・年齢階級別）



■ 目標歩数設定の根拠

資料 3 から福井県民の歩数は男性が 7703 歩、女性が 6805 歩である。これは資料 4 の健康日本 21（第 2 次）の目標値に達していない状況である。歩数の減少は肥満や生活習慣病発症、高齢者の自立度の低下や虚弱の危険因子として懸念されている。越前市健康 21 計画（第 2 次）行動指針では「+10 分歩く」とあり、今よりプラス 1000 歩歩くことを推進している。

資料 3：平均歩数（性・年齢階級別）



資料 4：日常生活における歩数の現状と目標

項目	現状	目標
①日常生活における歩数の増加	20歳～64歳 男性7,841歩 女性6,883歩 65歳以上 男性5,628歩 女性4,584歩 (平成22年)	20歳～64歳 男性9,000歩 女性8,500歩 65歳以上 男性7,000歩 女性6,000歩 (平成34年度)

(参照) 厚生労働省ホームページ

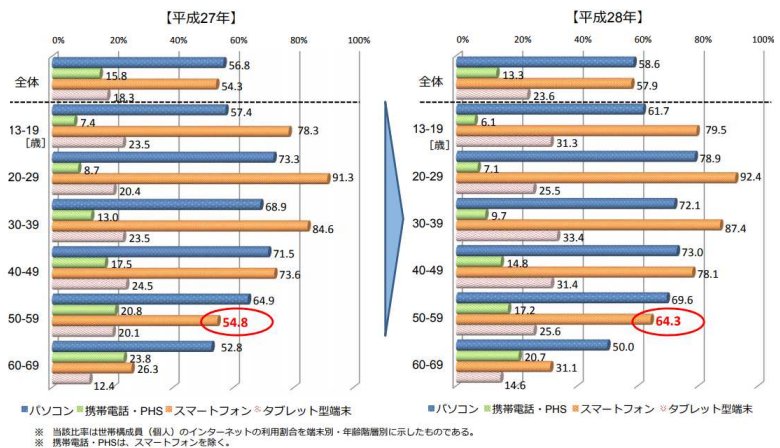
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21/kenkounippon21/mokuhyou05.html

■スマホアプリを提案した根拠

資料 5 よりすべての世代でスマートフォンの利用率は上昇しており、特に 50 代では約 10 ポイントもの上昇となっている。また資料 6 の越前市職員を対象としたアンケート結果からも 10～50 代のスマホ保有率は 80%を超えており、このことからスマホアプリでの健康づくりに無関心層へのアプローチとして有効であると考えられる。

資料 5：インターネット利用動向

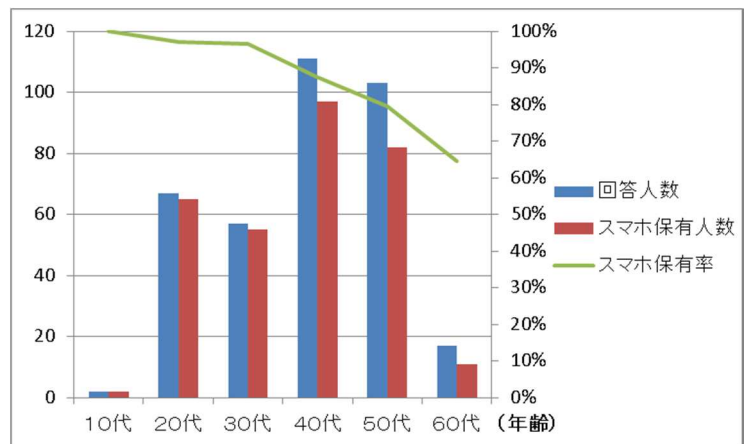
【平成 28 年度通信利用動向調査】



資料 6：スマホ保有アンケート結果

(越前市職員対象)

【情報統計課提供】



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大ききな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大ききな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

1. 主体

以下のような主体、役割で本アイデアの実現を目指す。

	主体	役割
A	運動普及推進委員会	企画、アプリの仕様検討、 検証とフィードバック
B	越前市役所 健康増進課	
C	越前市役所 情報統計課	
D	地元民間企業	アプリ開発

2. 実現にいたるプロセス

平成30年4月 アプリ開発

平成30年9月 アプリ配信

平成30年10月 健康ポイントチャレンジ開始